

中国の「都市新伝説」

——男と女の話を読む

加藤千代

はじめに

「みなさんが日々暮らしの中で耳にする、町や都会の生活を反映した物語を、整理し文章にして編集部まで郵送してください。長短は問いません」「封筒に『都市新伝説』と表記してください。」

これは月刊『故事会』（上海文芸出版社、一九六三年創刊）が、一九八八年一月号から新設した「都市新伝説」欄のための読者への原稿募集の呼びかけである。「都市新伝説」という中国語の呼称を初めて使ってその母体となつた『故事会』は、日本からみると頗付きのユニークな雑誌といえる。昔話や伝説から講釈さらに講談調の探偵小説やカンフーアクションまでその語り口をなぞつて活字としていわば通俗読み物であるが、单なる読み物にとどまらず読み聴かせにより、カタリやハナシの共通語による台本の役割を果しているために、読者のみが文字にふだん親しまない階層や文盲（一九九〇年七月国勢調査では全人口の十六%⁽²⁾）までその享受者・聴衆にひき

こむ、中国ならではの雑誌である。人気度は、発行部数が八四年以来五、六百万部といい全国首位に立つほどである。

『故事会』誌上の「都市新伝説」欄に掲載された話は一九九〇年六月号まで二年半の間に七十四話となり、その後も継続中である。

この種の現代のはなしへの関心は、いわゆる現代化の波の中であり一層高まっており、□承文芸関係の雑誌による類似の企画はほかに北京の月刊『民間文学』（中国民間文学出版社、一九五五年創刊）に一九八七年から設けられた「街談巷話」欄がある。こちらは「都市新伝説」欄に比較すると資料的価値が低いと判断せざるをえない。

中国語ながら「都市新伝説」と聞けば、アメリカの「都市伝説 Urban Legends」が想起され、また日本民俗学でいう「世間話」、さらに「現代の民話」とか「噂話」などの用語が「都市新伝説」の訳語として浮んでくる。各々の呼称の方向は異なるとしてもそれらが交差する一点は現代であろう。話し手・聴き手と読み解く者の私達とが同時体験的に共に生きる現代、その現実に日々新らしく生起する話である。“現代のはなし”と一括して名付けるしかないジャン

ルである。本誌の前号十三号の特集名は「現代の「はなし」」であった。「はなし」とカッコでくくったのは、変化自在の話たちを定位置につかせようとする苦肉の策なのだろうか。

現代のはなしに対する私達が覚える魅力は、一つには私達自身が職業的意識とは関わりなくその當みのただなに組みこまれていること。二つには、それゆえ個々の話に関する話し手自身のコメントを收集できること、とりわけ彼等が私達研究者の解釈する意味を意識しているのかどうか、その解釈を認めるのかどうか、といった相互の対話が可能であること。⁽⁵⁾ 対話は私達の側がくわだてるものであるが、この対話者間の関わりには、研究の新しい地平を拓くのではないかという希望を私達に抱かせるものがある。

日本人が中国の現代のはなしを対象として彼地において相互の対話を企図する場合、日本でのそれに比べ、社会体制の相違に起因する場面設定の困難や対象の現代性ゆえの政治的緊張感など特異な問題をかかえている。しかし私達が国内外を問わず、ともかくも現代のはなしを持つ一つ一つ読むことから、そして自らの現代と対峙することから出発しなければならないことは確かだろう。

この小論は「都市新伝説」という活字化された二次資料を利用することから、読みの方向として文献資料の解釈の枠を出ないものであり、フィールドでの対話のための予備的考察の性格をもつものである。「都市新伝説」は日本では紹介すら皆無と思われ、また中国では研究対象としてほとんど論じられていないエア・ポケットの分野である。そこでまず中国特有の公表資料に関する特殊性・限定性

を論じ、次に資料七十四話を分類概観する。その中から「男と女の話」と筆者が名付ける話群を主要テーマとしてとりあげる。これは「都市新伝説」に特徴的なひとつの典型と位置づけることができ、また話数の上でも他を抜いて全体の半数三十七話を占めるものである。

「男と女の話」を読み解く鍵は男女の物語的逆転にあると分析する。この話群においては無力で愚かな男どもと、元気印で男を手玉にとる悪役の女たちという二色染めの世界が展開する。いわゆる二項対立としての男女の位置の逆転、現実の男女の力関係の逆転がみられるわけである。逆転した話群が流布するのは単に物語文法に沿った奇事異聞の面白さゆえとは考えられない。では、その物語的逆転の向こうに何が見えるのか。この話群がいわゆる世間話と同じく男が管理する「男話」であるという視点から、本来男の優位性を約束すべきいくつかの歴史的装置が今日現在の時点で逆に男を苦境に追いやりるという逆説、そのただなかにある男たちの心のきしみ、自嘲が、男女の物語的逆転を意味するものと読んで結論とする。

なお「都市新伝説」は次節で述べるように資料的限定性をもつゆえに、本稿では中国語のままカッコをつけて使うことにする。

一、資料の限定性

ここに扱う「都市新伝説」が筆者による採録資料ではなく活字資料である以上、当然その特殊性・限定性を考慮しなければならない。

最も大きな限定性は、話柄に対する政治的統制である。このことは、J・H・ブルンヴァンによるアメリカ都市伝説の俯瞰図ともいべき『消えるヒッチハイカー』や『チヨーキング・ドーベルマン⁽⁶⁾』と比較してみれば、意外なほど単純明快に判明するのである。

ブルンヴァンは都市伝説を二大別する。「都市伝説の多くは、不思議な現象やまだ見えてこない危険、暴行や殺人、異物の混入、そして死者の存在といった、古くさいお化けの話やこわい話と同様のよく似た基本的特徴を持つている。しかし、もうひとつ、重要な一群の伝説がある。が、こちらの話は、少しも気味が悪くはない。これらの話の主人公たちは、笑劇や、現代的なシチュエーションを持つ喜劇のように、自分の最愛の人の裏切りや、まる裸の姿を公然と人にさらして恥をかくことに最もおびやかされるのだ。」⁽⁷⁾

中国の「都市新伝説」では、前者の第一部類に属する話がほとんど欠落し、後者の第二部類の話がほぼそのすべてを占める。幽霊話などの他界に通じる話は、いわゆる迷信として人心を惑わす「謠言」のレッテルのもとに公表されないので普通である。巷間のナマの話は、第一部類が優勢であることは言うまでもない。それらは一般に公表されないばかりか、研究者による調査や論述もまた許されていないようである。現代のはなしを論じた唯一の論文とおもわれる鄭風「当代城市口傳故事的亜文化特徵」〔現代都市口承物語のサブカルチャ一的特徵〕『民間文学論壇』八八年二月、五一—五四頁)は、十三話の採録資料を事例に提示しているものの、それらはすべて第二部類の現代笑話的な話ばかりであり、第一部類についてはそ

の存在すら言及していない徹底ぶりに私達はただ驚くしかない。

つぎに資料的限定性の二つめには、投稿者(書き手、採録者)による文字化の仕方、再話の仕方の問題がある。これは中国のみならず日本でも論じられている口承文芸研究の普遍的な課題の一つであるが、中国の場合、文化政策に沿つた語りの運動の中で現代生活を素材とした物語が「新故事」の名のもとに大量に語られ印刷されており、その運動をになう語り手(「故事員」と呼ばれ自らも物語を編む)や書き手(セミプロになると「故事作者」と呼ばれる)が、「都市新伝説」の投稿者のかなりの部分を占めると予想される。民間に流布する現代のはなしと「新故事」との相違については筆者はすでに他で論じているので本稿では言及しないが、「都市新伝説」は以下論じるなかで理解されるように、その文章化は本稿の論旨に差し障るほどの問題はないと考える。

二年間半に亘つた七十四話を概観し分類してみると次のようである。⁽¹⁰⁾ 分類の基準としては、各々の話がなぜ広まるのか、即ち話し手たちにアッピールするポイントを考えたものである。

I 笑い (四十二話)

- A 男と女の話(三十二話)、a 愚か者。二十五話のうち男が二十二話あるのに対し女は三話にすぎない。b 知恵者・狡猾者。七話のうち男が三話、女が四話)なおセツクス・ジョーク風の話は三話がブルンヴァン本の中の話に対応しており興味深い。⁽¹¹⁾
- B 男と女の話以外の笑い(十話)。a 権威への諷刺。五話。b 業比

べ。二話。c 愚か者。二話。d 狡猾者。一話。なお、中央政府の権力者に対する諷刺の類もまたタブーである。

II 恐怖

(八話。たとえば首をさげた幽靈の噂がたつが実はそれは猫背の老人が尿壺をさげた姿だったという式のタネ明かし構造の話が二話。逃亡犯が公安局警備隊長の家を襲う話など) なお、「袋の中の足」(八八年十月号) はブルンヴァン本の「包みの中の死んだ猫」と対応する。

III 犯罪の裏表 (八話。被害者がじつは加害者だったといふでん返しの結末をもつ)

IV 伝奇的物語 (五話。たとえばアメリカ華僑が四〇年ぶりに帰国し第二次大戦中の米軍需工場の巨額の株券を見つける話や、台湾の金持ちが四〇年ぶりに帰国して糸余曲折のすえ老母をさがしだす話など、いずれも伝承の採録ながら短篇小説風の長編が揃っている) なお伝奇的物語と名付けたのは、これらの話が中国の伝奇小説の伝統を繼承するものと考えるからだ。稿を改め論じたい注目すべき話群ではある。

V 悲劇 (六話。本稿で取りあげる「男児誕生を待ち望む話」など)。

VI その他 (四話。「新故事」というべき教訓話など)

笑いを核とした話が、「都市新伝説」の大半を占めるることは先の分類一覧のとおりである。笑いというものが、よく引き合いに出されるホップス理論の、他人に対する優越感に基づくものであるなら、口頭伝承の笑いは集団で優越感を持つことのできる愚かな他人が話の主人公となる。ここではガールハントに失敗するオールドミスならぬオールドミスターが、どうやら集団で安心して馬鹿にできる標的であるらしい。以下、ガールハント失敗譚十話のうち六話を紹介する。いずれも粗筋のみ。

〔アーモーの屁さがし〕

機械工場のアーモーは三十になるというのに結婚相手が見つからない。寮の友達が相手を見つけたと聞き、そのコツを教わりにくく。友達がいう。杭州へ出張に行く汽車の中でさ、横の人がいきなり立つて「うつ、くさい、たまらん」と大声をあげたんだ。

と、向い側の娘がもじもじしてゐるじゃないか。そこで俺はパツと立ちあがり、「僕がしました。屁は人体の氣なんだから、出さない道理はありません」とピシャリ言つてやつたんだ。で、その娘は俺にぞつこんつてわけさ。これを聞いたアーモーは早速バスの中でその機会をねらつた。とうとうある日バスの中で屁の音にめぐりあう。しかもそこには美しい女性がいるではないか。アーム

二、男と女の話

1、ガールハント失敗譚

笑いを核とした話が、「都市新伝説」の大半を占めるることは先の分類一覧のとおりである。笑いというものが、よく引き合いに出さ

れるホップス理論の、他人に対する優越感に基づくものであるなら、口頭伝承の笑いは集団で優越感を持つことのできる愚かな他人が話の主人公となる。ここではガールハントに失敗するオールドミスならぬオールドミスターが、どうやら集団で安心して馬鹿にできる標的であるらしい。以下、ガールハント失敗譚十話のうち六話を紹介する。いずれも粗筋のみ。

「はぐいと身をのりだし、「屁は僕がしました」と大声をあげた。
と、女性はアーモーにビンタを二つくわした、「私はゲップを
しただけよ」。(広範な地域に流布。原題「阿木尋屁」。採録者は
安徽・李勇超。八八・十二、九一十頁。なお主人公の名前のアーモーは愚か者の意味。)

この話には次のようなコメントが付されている、「編集部にこの
話の類話が十編以上も送られてきた。そのなかで江西の柯振生と安
徽の李勇超の投稿が話の本質をついたものであった。柯振生は我々
とは旧知の仲であり、李勇超は新頃の投稿者である。どちらの原稿
を掲載するべきか。我々はあくまでも原稿の質を採用基準として何
度も両者を比較した結果、新しい友人の投稿を採用することにした。
柯振生にはあしからず御了承いただきたい」。

「傘で釣る」

上海のある工場の労働者アーマオは、特殊技能をもち月給はボ
ーナス込みで二百元という羽振りのよさなのに、三十一才になる
今日まで女友達はひとりとしてみつからない。自分の弟子が結婚
相手を見つけたと聞き、そのコツを尋ねると、「傘ですよ、傘で
釣り上げたんですよ。」アーマオはそれだけを聞くと早速、傘を
手に大通りに出た。きれいな娘をみつけると、後からつけていき、
いきなり傘の柄を娘の首にひっかけて言つた、「友達になりまし
よう。この傘をご挨拶にプレゼントします。」娘はかんかんにな
つて「ごろつき」と大声をあげた。通りの人びとがわつとたかつ

てアーマオを痴漢だとばかり派出所につきだした。警官からさん
ざん油をしぼられたアーマオは、弟子の家に押しかけなじつた。
ところが、弟子はじつは黄浦江にあやまつて落ちた娘に傘の柄を
さしのべ救いあげてやつたのだつた。(上海地区に広く流布。原
題「洋傘柄艶事」。採録者は上海・張更生。八八年七月号、三二
～三四頁。)

ものまね型といえるこれらの話は、ほかのガールハント失敗譚が
現実的色彩が濃いのに対し、いかにも笑話的たわいもなさが目立つ。
それは、普通の人間もいざ色恋沙汰となると、調子つばずれの愚か
さに落ち入るものだという共通認識が人びとの間に存在し、そのた
めにたわいもなさがアリアリティを付与されて、この手の話が広く流
布されるものと思われる。

また「模倣の失敗」モチーフは、口承文芸の全ジャンルに普遍的に
語られるが、これが単独に話を形成するいわゆる単純形式は、一
般に笑話といわれる。ではこの二話は笑話かというと速断はゆるさ
れない。笑話と笑いをテーマとした世間話や伝説との区分問題は從
来討議されているが、都市伝説の場合、ブルンヴァン本の諸伝説を
みても、中国のそれを見ても、話の面白さ即ち物語文法の一つにシ
ヨツキンギな結末、意外な結末が存在する。ここでは模倣の面白さ
に加えて結末の意外性すなわち「屁→ゲップ」「傘で釣る→傘の柄
で救いあげる」という置き換えがある。都市伝説の意外な結末と笑
話における話のオチとの間にどんな差異があるのか、すなわちテク

ストにおける両者の、ずれに関しては、今後の課題としたい。次は身のほど知らず型といえる話。

「海外から来た人」

美人のユーは、雑誌の文通紹介欄をみてシンガポールの青年に手紙を出した。返事が届き、相手のフィリップスが商用で上海に行くので会いたいというのだ。ふたりはデートする。彼は長身の颯爽としたシンガポール華僑だ。ただ出身地が上海人の嫌う蘇北の塩城だったが、ユーはすっかり気に入る。じつは彼は国際郵便局の職員でユーの文通を求める手紙を開け、華僑になりますましてデートを申し込んだのだ。さて彼は、それと知らないユーを食事にさそう。あいにくと上海賓館（外国人用ホテル）の前だったの

で、やむえずその食堂に入る。夕食代がなんと九〇元、自分の月給より高い。彼は有り金をはたいて人民幣で支払おうとするが、

ボーアイは兌換券（外国人専用通貨）で払えといい、彼がニセ華僑だと見やぶる。ホテルを追い出された彼はユーに告白した。自分

は出身地が悪くて誰も相手にしてくれないので、華僑になりますせばものではないかと試したくて貴女をだましたと。ユーは「もう、けつこう」と言い捨て立ち去る。（上海一帯に流布。原題「海外來人」。上海・王宏光。八八・三、四一一四六頁。なお、中國では個人の私信を公的機関が開封し検閲することは特別なことではない。）

「恋人さがし」

チアンは頭脳明晰なハンサムボーアイ、仕事もぱりぱりこなす会社員だが、三十才になるというのに選り好みがたたつてまだ独身。ある時、汽車の中で知り合った美人が『部長』の令嬢Yと聞き接近しプロポーズにまでこぎつける。その父親に引き合わされるが、父親がじつは『小売部の部長』（小さな商店の店長）とわかると、令嬢をそでにし、こんどは会社の副社長の令嬢Fに近づく。ところがF嬢はじつはY嬢の友人で、F嬢の話からYの父親はかつて軍区の部長を勤め、退職後、自分から好んで商店の店長をしていることがわかる。チアンは悔むが後の祭り。（原題「找対象」、江西・鄭允欽、八八・五、三〇一三三頁）

もてない男が物惜しそうな顔をしているのにつっこまれ、女にだまされる話。

「街角で」

カオは立派な若者だが、勤め先が廃品回収センターのために娘たちから敬遠され女友達ができるない。上海では近頃、街角のガーリーハンターが流行し、けつこうそれで良縁となる例が多いと耳にしたカオは、毎日通りにたつが、とても声をかける勇気が出ないと、ある夜、助けてと美しい娘が寄ってきた。ごろつきに追われているという。カオは娘を家まで送つてゆく。娘はカオを家にあげ馳走し風呂まですすめて誘惑する。娘はじつは香港商人の妾（現地妻）だった。この手口で遊び相手をひつかけていたのだ。

(原題「馬路朋友」。上海・胡鵬南。八九・八、四五—四八頁)

このほかに、工員で二十八才になる青年Qは、街角で美人がスイカ売りと喧嘩しているのを仲裁し、娘をかばい家にさそう。Qの親は息子がはじめて女友達をつれてきたと大喜び。一家でごちそうの準備をするが、客間の娘が居なくなる。書き置きが残されカラーテレビが消えていた。(「小聰明」、湖北・王兵採録、八九・十二、二一一—三頁)。運送業で金もうけした若者が素適なラブレターをもらい、指定された場所にデートに出かけたすきに、泥棒に入られる話(「韓小宝赴約」、出東・温福生、八八・六、二一一五頁)などがある。

ガールハント失販譚が、いずれも都会ならではの男女の自由な出会いを基盤としていることは言うまでもない。話の中に最近上海ではやるものは「馬路求愛」(街角のガールハント)とあるが、それは恋愛結婚の顕在化を背景としたものだろう。恋愛結婚といえば、日本では一九六〇年代の高度成長の達成の中で主流になつたといわれ、中国では一九八〇年代、とくに後半の経済の自由化と歩調を合わせたものと考えられる。

従来の結婚は古来の「父母之命」「媒約之言」にもとづくのが普通である。ちなみに『故事会』の一九八一年二期(当時は隔月刊)から八五年八月号まで連載された「新故事」欄のうち八四年一年間に掲載された八十一話の中から、男と女の話「十四話」とりだして概観してみると、「街角のガールハント」モチーフをもつ話は皆無

といつてよい。また男女の出会いのあり方は、仲人を介する話(五話)、結婚詐欺師の登場(四話)、文通によるもの(二話)などで、その多くは、男女が波瀾にもまれ破局に瀕しながら結末はハッピーENDである。物語の文法からいえば、これらは昔話的であり、都市新伝説のガールハント譚はすべて失敗・破局に終る点でやはり伝説的である。

では、オールドミスターのしくじり話が、なぜ「男と女の話」のメインテーマになつているのだろうか。

それは、現在の中国における恋愛と結婚という男女の取引について、男の立場、その経済的立場が弱体であることの反映と分析できよう。恋愛結婚という男女が対等という幻想がついてまわる。しかしたとえば先進国といわれる日本を見ても若い男と女の地位・収入・将来性には今も昔も格段の差がついており、一九六〇年代に主流となつた恋愛結婚はじつはマイホーム主義とセツトになつていた。^{14 15}換言すれば男が女を囲い込む経済的余力がその根底にあり、恋愛の力関係もそれを前提としていたわけである。ところが現在の中国では経済の自由化・活性化にみあつた男女交際の意識上の自由化はすむものの、恋愛関係で強くるだけの経済力を一般的の男たちはまだ手にしていない。そして結婚後の生活も夫婦共稼ぎでなければ子育てをふくめ人並みに暮らせないという現状がある。中国に専業主婦層が存在しないのは、じつは女性の社会進出でもなんでもなく、それ以前の問題なのだ。

男にとっての結婚難をさらに深刻にするのが、いざ結婚となつて

からの経済的負担である。中国の結婚には男側が結納金はむろんのこと、新居や家具から盛大な披露宴の費用まで全てを負担する、いわば昔の売買婚のなごりが存続するため、その条件を満たせない多くの青年たちの苦境は深刻な社会問題になつてゐるほどである。⁽¹⁵⁾
オールド・ミスターのガールハント失敗譚はしたがつて、都会のファッショントとしての街角のガールハントの流行や、恋愛結婚の頭在化という青年男女の現代風俗に由来するのみならず、結婚難といふその家族・親たちをまきこむ社会問題に由来するがためにかく広く流布されると読むほかないようである。

2、女のビンタの話

世間話や笑話さらに伝説は、「男話」といわれ、主として男がその伝承の荷い手となり、昔話が「女語り」といわれるのと対比をなす。都市新伝説もまた世間話すなわち男話に属するものであり、実際に月刊『故事会』の原稿募集に応じる書き手をながめると、その氏名から判断するに、中国人名は日本人名ほどに男女名の違いが明確ではないにしろ、筆名含めて九割方が男性名である。また個々の話をみても男を主人公とするのが圧倒的に多く、「男と女の話」に分類した三十二話のうち女を主人公とするのは六話、また男と女の話以外の話三十一話のうち女の話は一話にすぎない。

女の話のなかで注目すべきことに「女子青年の間に流布」と特筆された話が一篇だけある。

「利口な女性」

アベックが映画館に急ぐ途中、男の方がうつかり厚化粧の女にぶつかつた。女は「痴漢だ」と大声をあげパンパンとビンタを食らわし、口汚くののしる。男はふるえあがり声も出ない。と、その女友達がいきなり「よくも私の彼をなぐたわね」と、その女の顔をひつぱたいた。ワツとあつまつてきた人垣にむかい、美人の女友達は、「みなさん、私の彼は中学校の教師をして品行方正でとおつてます。それに私という恋人がいながら、なんで行きづりのこんなデブ女に手を出さなければならないのでしょうか。みんなさん、私とこのあばづれ女を比べてみて下さい。みなぎんならどちらを選びますか。」といつて女をやりこめる。(江西一帯の女子青年の間に流布。原題「精明的女人」。江西・夏国強。八八・一四六一四七頁)

この話は、罵語^{マーユ}（罵り言葉）が日本語に比べてとてつもなく発達した中国語ならではの、罵語のぶつけあいに妙味があり、粗筋だけ記すとそれが伝わらない恨みが残る。しかし、テーマから分析してもこの話は注目に値しよう。伝統的な「巧女^{チヤオニ}故事」（賢い女房譚）を継承し、なおかつ「書呆子^{シュダオイ}故事」（本バカの話、知識人の無能を笑う話、古典笑話では私塾の先生、ここでは学校の教師）の現代版でもある。

なお、この話と対になる話「ビンタふたつ」は、満員バスの中でパンパンとビンタの音がひびく。若く美しい女性がさわり魔をはつたのだ。ところが頬にビンタの跡をのこした青年は、自分の前にい

る少女がさわったのだと主張し、まわりの乗客にそれを認めさせ、女性に罰としてビンタの跡をなめるか又はビンタ二つを受けるかとせまり、女性が自分の非を認め謝ると許してやる。（原題「両箇耳光」、浙江・張松才、八八・四、七一九頁）

この話は、「男と女の話」三十三話のうち男が女に勝つ話がたつたの三話しかないそのうちの一話である。先の「利口な女性」と形態は全く同じで、さわり魔行為をしたと目される男の潔白を証すのが、その男自身であるか男の女友達であるかの違いである。いずれにしろ痴漢やさわり魔の行為は、雜踏する都會、赤の他人の集合體である都會特有の破廉恥行為であつて都市伝説ならではの話柄である。

この種の事件は實際問題として日本と同様に頻発しているのだが、それではそれに対する女のビンタは現実はどうなのか。中国での筆者の見聞および中国人の話によれば、人前での女のビンタはまずめったに起らぬいし、夫婦喧嘩でも男による女へのビンタの方が普通なのである。つまり男のビンタが現実であるからこそ、女のビンタは奇事異聞となつて広く語られるわけである。

「利口な女性」は、女子青年の間に流布すると注記があるので、女がビンタを張るその行為ではなくして、女が女のビンタを物語る、意味を今少し迫つてみたい。中国の俗諺に「罵人別駕短、打人休打臉」（人を罵るなら欠点を罵るな、人をなぐるなら顔をなぐるな）とあり、顔をひっぱたくのは相手に最も大きな打撃を与え、しかも公衆の面前となれば加えて相手をさらし者にできる。

物語における女のビンタの場面設定は、さわり魔や痴漢の行為を受ける時、換言すれば女の側には何も落度はなく、ただに女であること自体が原因ゆえの恥辱を受ける時である。——例の厚化粧の女もこれを知るからこそ偽つて大声をあげることができた。したがつて明白このうえない被害性をもつゆえの絶対的な優位性を表現する、最高級の手段として女のビンタがひびきわたる。女が女のビンタを物語るのは、女のルサンチマンの発現であるとみてそれほどの飛躍はないのである。

三、男女の逆転、その向う側

若い男女をめぐる話を中心に述べてきて私達が強く印象づけられるのは、男があくまでも弱く女があくまでも強いという、男女の逆転現象である。男たちは恋人生がしにくじる愚かで憶病でときには身の程知らずに計算高い役柄をあてがわれる。しかも男たちはやつとの思いで結婚し晴れて夫となつてからもドジな役目しかまわつてこない——ここでは具体的に例示する余裕は全くなないが。

一方の女たちはといえば、すでに見てきた、ビンタで男の甘えをぶつとばす娘、うぶなオールド・ミスターを誘惑する香港商人の妻、もてない男をひっかけ泥棒を働く美人、ホテルで客のズボン下に縫いつけられた三千元を失敬するコールガール、また結婚した後は後で、インポの夫に見切りをつけ新しい男に走る妻、夫の不倫現場に踏みこみ顔色一つ変えないでさよならをいう妻、などなど。元気印

を絵に描いたような、そして悪役を一手に引き受け演じる華やかさである。

男の愚かさを笑うためには、相方の女がどこまでも賢しく強くたくましくなければならない、という物語文法に沿った男女の逆転が認める。「都市新伝説」は先述のとく基本的に「男話」である。

話し手の男たちは、それでは何做これほどまでに自分たち男の愚かさを笑うのだろうか。

二においてガールハント失敗譚の熱源として恋愛結婚時代における逆説的な結婚難を抽出した。しかし男どもをとりまくさらに大きな逆説を私達は見逃がしてはなるまい。「都市新伝説」の中にはじつは次に挙げる男児誕生を待ち望む話群が流布しており、その向う側に伝統的な男尊女卑の観念が牢固として残存するために女ばかりか男が苦境に追いこまれる状況が存在するのである。この話群は、三千年余の歴史をもつ男尊女卑を、現代の政府による一人っ子政策が助長させた、その結果の悲劇と言わざるをえない。

「似合いの夫婦」

魚の養殖と魚のオートバイ行商があたつて万元戸（にわか成金）となつた三十才のチエンは、結婚相手を求める広告を出した、

「婚前交渉をして男児を生んでくれたら結婚をし、女児を生んだ場合は慰謝料を三万元払つて母子と別れる」と。広告は噂となつてパツとひろまつた、が、娘は誰もやつてこない。とうとうある夜、誰かが戸をたたく。予想に反して楚楚とした美人。氣だても

よく、チエンはことのほか気に入り、例の広告を反古にしてすぐに盛大な結婚式をあげた。やがて月足らずで生まれた赤ん坊は、男児ながら、なんと黒人の子であつた。（江南一帯に流布。原題「郎財女貌」。上海・沈雲娟。九〇・一、一七一二三頁）

「待ち望む」

槐陽鎮（鎮は農村地帯の中の物産の集散地）のある家では、女児ばかり二人も生まれたので、三人目は是非とも男の子をと願い占つてもらつたり、西山娘娘廟や觀音娘娘に祈願したりした。そかいあつて見事、男児が誕生した。廟にお礼参りしている間に母親が大出血。父親と婆さんが病院に連れていく。家に残された二人の幼い娘が産婆さんに「母ちゃんはどうして血を流して死にそうなの」と聞く。産婆さんは生まれたばかりの赤ん坊のおちんちんを指して「みんな、このちんちんのせいだよ」とため息をつく。娘たちはハサミでおちんちんを切つてしまふ。病院の母親は死ぬ。帰ってきた父親は、赤ん坊が死んでいるのを見てびっくり。その原因を知るとカツとなり娘たちをなぐり殺し、それに気付いて自分も自殺する。」（原題「盼來的悲劇」、河北・張少英、八・十一、十六（十九頁）

男児誕生を待ち望む話は、このほかに、自分が原因で子供のできない夫が、両親からせつかれ仕方なく妻に代理夫をさせさせるが、生まれてきた子供は女の子。夫が死ぬと妻と女児はその家から追い出される。

出されるという話（「痴心漢」、八八・一、五〇～六三頁）など。

ここに紹介した話が広く流布するのは、物語としての面白さ、すなわち幸（男児誕生）から不幸（他人の児、死）への逆転、どんぐ返しがあることにもよるが、それよりも話の背後に農村に頗著な女児の間引きや女児虐待事件⁽¹⁾という現実が横たわり、單なる奇事異聞の悲劇としてすまされない人びとの切迫感が、話の流布の源泉であると考えられる。

封建性をむきだしにした男尊女卑の枠組における一人っ子政策、その重大なツケはつまるところ誕生を渴望される男にまわつてくる。男子過剰時代の到来である。その足音はすでに耳元にひびいているものようだ。

都市新伝説の主要な担い手である男たちをめぐる状況は、ガールハント失敗譚でみたように、本来男にも有利であるべき恋愛結婚が男たちの経済力不足により男を困難におとしいれ、また男尊女卑の一つの標示である売買婚的枠組の残存ゆえに男の結婚難が招来され、さらに誕生を渴望されるゆえに重大なツケを払わなければならぬという二重三重の逆説に包囲され出口がないといつても過言ではない。

「都市新伝説」の男と女の話にみる男女の物語的逆転は、逆説のただなかにある男たちの心象風景であり、自嘲であると読み解くことができよう。男たちはあくまでも愚かでなければならず、女たちは現実の女のあり方とは関わりなく元氣印で男を手玉にとる悪役を

演じなければならないのである。男と女の話が現在の姿のまま、いつまで生きながらえるのか、かなりの長い時間を予測するしかない現状のようだ。

「都市新伝説」は、中国が歴史大国であるゆえに背負っている近代化への苦腦を私達に告げるものではある。

注

(1) 『故事会』八八・一、四四頁。

(2) 『北京週報』一九九〇年十一月十三日号によれば、「文盲・半文盲（十五才以上の文字を読めないか、ざくすこししか文字を読めない人）」の総人口に占める比率は十五・八八%である。

一九八二年の国勢調査時に比べ六・九三%の減。

(3) 都会生活の中の現代のはなしに注目した最も初期の論文として任嘉禾「都市口頭文学的崛起」『民間文艺集刊』三、一九八一

(4) 九〇年六月号までの掲載話数は百十二話。新故事風の話や書き手の稚拙な隨筆風の話も多く、また物語の舞台となる場所が個有名詞（所在地や工場名など）で表記されていない。

(5) J・H・ブルンヴァン、一九八一、『消えるヒッチハイカー』（大月隆寛・菅谷裕子・重信幸彦訳、新宿書房、一九八八）の中の「アラン・ダンデスの言う『口述の文芸の批評』（oral literary criticism）」すなわち、その話に関する情報提供者自身のコメントを収集することが必要だ。……」以下三行を本稿

の文脈にあわせて引用していることをことわっておく。

書房、一九八八、一二〇～一二七頁。

- (6) J・H・ブルンブラン、一九八四、行方均訳、新宿書房、一

九九〇

- (7) 注⁴前掲書、一八五頁

- (8) 拙文「中国世間話研究への試み」(『文化人類学』八、アカデ

ミア出版会、一九九〇) を参照されたい。

- (9) 拙文「新故事の世界と反世界」(『人文学報』一八〇、東京都立大学、一九八六。拙文「中国世間話事情——当代「故事作者」の役割」(『説話の始原・変容』、説話・伝承学会、一九八八

- (10) 一九九〇年度本学会松山大会において筆者の研究発表(『中国の都市新伝説』——その笑話性をめぐつて)の際、参考資料として「『都市新伝説』(月刊『故事会』八八・一～九〇・二所収六十四話) 分類別一覧表」を配布した。そのリストにはすべての話のプロットが付記してある。

- (11) 「ベッドのマット」(八九・一)と「切り離されたブルマン車」(注⁴前掲書一九九、二〇〇頁)。「そこの者が泊まる」(八九・三)と「ヌードまたまたヌード」(同二〇一頁)。「香水ハンカチ」と「開いていたジッパー」(同二〇一頁)。

- (12) 関敬吾「笑話」(日本の昔話、比較研究序説)日本放送出版協会、一九七一。武田正「世間話の課題」「昔話と世間話」昔話研究懇話会、一九七五、を参照。

- (13) 斎藤学・波田あい子編『女らしさの病い』誠信書房、一九八六、十八～二十五頁。小倉千加子『セックス神話解体新書』学陽

(14) 注13に同じ

(15) 史鳳儀『中国古代婚姻与家庭』湖北人民出版社、一九八七。

三六～三八頁、四〇～四三頁

- (16) 「高価婚姻成了農民一大災難」『人民日報』一九八七年六月六日を典型とする様々な報導記事。

- (17) 加藤千洋「中国・新事情(流行語)編」『中国・危機の読み方』JICC出版局、一九九〇、一〇五～一〇七頁。

(かとう・ちょ／愛媛大学)